

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の申請主体の名称

宮崎県須木村

2 地域再生計画の名称

須木村グリーンツーリズム

3 地域再生の取組を進めようとする期間

認定を受けた日から５年間

4 地域再生計画の意義及び目標

須木村は宮崎県の西部に位置し面積 2 4 3 . 4 7 k m²、このうち 9 2 % が林野で占められ、さらに 8 9 % が国有林である。栗とゆずの生産は全国的に有名であるが、雄大な大自然のパノラマを有効に生かすべく、グリーンツーリズムを導入することにより都市と農村の交流を積極的に推進したい。このことは、単なる観光という位置づけではなく、都市と農山村の持つ特性を十分活かしながら地域の再生を図るものである。

幸いにして、須木村は宮崎市からは 9 0 分と近距離に位置しているにもかかわらず、宮崎市と比較して年平均気温が 2 以上も低く、冬季には積雪も見られるなど南の「軽井沢」的なイメージもあり、都市住民の受け入れ環境は抜群で、再生を図る上で好条件を有していると考ええる。

さらに特筆すべきは、本村が観光施設のメイン「すきむらんど」にかやぶきの民家風建物（長期滞在型施設 7 棟）を有していることである。同施設を、農村文化の発信、体験学習、子供たちの総合学習の場としても活用し、『緑が育む潤いとやすらぎの自然回帰の村』を前面に押し出していく。さらには、地元の人材育成も図りながら、都市と須木村の共生・対流を推進することにより、今までとは視点を変えた地域の再生を展開していきたい。

（１）本村産業の特性

- ・ 本村は、農業（栗・ゆず・きゅうり）、畜産、施設園芸作物（花・きゅうり）、林業（椎茸）が基幹産業である。また、豊かな自然、気候（日格差）を活かし観光産業を村の主要産業として位置づけている。
- ・ 観光産業は、本村の経済活性化にとって大変重要なものであるが、近年、村外からの観光客数や観光消費額が減少傾向にあるなど、長引く景気の低迷や村内外の競争の激化により厳しい状況にある。
- ・ このため、平成 1 4 年度に策定した第 3 次須木村総合長期計画に基づき、新たな観光施策として「緑が育む潤いとやすらぎの村づくり」を推進している。

(2) 計画作成の背景

- ・ 今日、従来の個人型のスピード型の志向から、ゆったり感を味わいながらの自然回帰の価値観が求められつつある。豊かな自然環境や人情味あふれる村民性等、本村は自然回帰の概念と一致する特性を有している。
- ・ 自然回帰の柱の一つである自然回帰ツーリズムについては、今後ともさらに関心が高まると考えている。人々の旅行ニーズの多様化に伴う小グループでの旅行の増加や体験を目標とした旅行人気の高まりなど観光に対するニーズが大きく変化している。高齢化社会の到来やライフスタイルの多様化により、人々の生活に「潤い」や「癒し」を与えることのできる観光地が求められている。
- ・ 本村の豊かな自然環境は真に観光客が安らげる宮崎の奥座敷といえる。しかも、宮崎空港、鹿児島空港には1時間30分、高速インター（高原IC・小林IC）には40分の所要時間でカバーできる立地条件にも恵まれている。
- ・ このような背景を踏まえた上で、「みどりが育む潤いとやすらぎの村づくり」を展開させ、須木村ならではの新しい観光モデルを構築する。

(3) 村の取組み

- ・ 特産品の販路拡大・PR、特産物の栗・ゆずを駆使した加工品の製造（現在、栗甘納豆、栗パイ、ゆずしぼり、栗ようかん、愛す栗夢など）
- ・ 中河間地区の「手作り味噌」、「こんにゃく」、袋ふるさとグループの「ふくれ菓子」、「おこわ」、「もち」、奈佐木グループの「ゆず唐辛子」の製造販売
- ・ 栗の木オーナー制度の展開は村内5地区で展開、全国（福岡、東京、青森等）より現在90人が栗の木オーナーとして1本2万円で申し込み、7月中旬に開園式を実施、家族連れ500名程度が一同に会し交流会で都市と農村の交流も図っている。
- ・ ナゴ蘭は須木村が自生の北限とされ15年度よりパイオ栽培より試作に成功。西洋・東洋蘭に比較すると小ぶりで香りが強く栽培管理も簡単で専門家筋では非常に好評で本年5月に量販店に400鉢を出荷する体制も整ったところである。
- ・ 山紫水明の立地条件を活かし体験型ウォーキング事業を15年度よりモデル事業として導入したが、南国宮崎に位置する本村であるが、山間地特有の日格差により秋の紅葉も鮮明で人気を博し、そばうちを体験しながら、最後に「かじかの湯温泉」で疲れを癒し長期滞在型施設でくつろぐコース設定に福岡より15名の参加があった。

(4) 地域再生計画の意義

本計画は、本村の「豊かな自然環境資源」、「自然に触れる」、「自然と遊ぶ」、「自然を学ぶ」、そして「農山村地域と都市との交流」を三つの柱とした須木村型の全国的に名をはせた「須木栗」の収穫体験、オーナー制度による管理栽培の学習体験、そばのみ

落とし・そば打ちの肌で触れる体験、森林浴をしながらのウォーキングで自然と遊ぶことによる健康づくりなど「緑と土の香り匂う」グリーンツーリズムモデルを全国に発信する。特に、地球環境が論議される昨今、森林の持つ特性を活かし、付加価値の高い新たな観光産業の振興及び地域・民間主導の農村活性化を図るものである。

(5) 地域再生計画の目標

本村が誇る自然環境（特に広大な森林資源）資源が豊富であるという地域特性を十分に活かしつつ、自然回帰のグリーンツーリズムの推進による都市と農山村地域との交流を促進することにより、須木村型の新たな観光モデルを構築する。

なお、農山村において、グリーンツーリズムを推進することにより、観光客等の農山村への滞在時間が長くなり、より地域住民との交流が深まることで、地域が活性化し、また経済的にも地域特産物の消費・販路拡大、宿泊収入等農家所得・民間事業者所得・公的収入が増加するなど、農山村地域の経済活性化につながる。地域理解が深まれば、リピーターの定着・増加など、その後の展開も期待できる。

本村が取り組んでいる栗の木オーナー制度は16年度においても更に樹園地と園主の拡大を図る。

開発途上にある「ナゴ蘭」については、観光客の癒しの観点と若者の雇用の場の促進が期待できる。

特産品の更なる開発は、高齢化が進む本村の現状から、高齢者の働く場・生きがい作りにも寄与する。

自然環境を活かした体験型ウォーキング等の実施は、観光客の受入環境・誘客資源が拡大する。このことが交流人口の拡大につながり、ひいては地域経済の活性化につながる。

5 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

現在の須木村の人口は2,351人であり、高齢化率32%となっている。県の観光動向調査によると年間の本村へのいりこみ客数は10万人となっている。隣接する綾町は100万人とも言われ、第1段階として是非とも本村のピーク時の20万人を実現したい。特産品の村内販売額は20,000千円であるが、これを40,000千円としたい。前記の宿泊施設の宿泊者数は年間200名程度であるが、5,000人は可能と考える。また、社会的効果としては民間活力が導入できるとともに、本村のような超高齢村にあっては、高齢者の働く場も自ずと増えてくる

年間入込み客数	10万人	→	20万人
特産品の村内販売額	20,000千円	→	40,000千円
「すきむらんど」宿泊者数	年間200人程度	→	年間500人

6 講じようとする支援措置の番号及び名称

2 3 0 0 0 4 都市と農山漁村の共生・対流に関する施策の連携強化

7 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組その他の関連事業

・主要地方道（県道）宮崎・須木線の改良促進

（現在も整備中であるが、更なる充実整備が図られることで、綾町の観光客を西諸地域「小林市・えびの市・高原町・野尻町・須木村」に周遊させ、西諸地域全体の観光浮揚に寄与することが期待できる。）

・「道の駅」に類する国道沿いの郷土特産物等販売所設置

8 その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

別 紙

1 支援措置の番号及び名称

2 3 0 0 0 4 都市と農山漁村の共生・対流に関する施策の連携強化

2 当該支援措置を受けようとする者

須木村

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

「都市と農山漁村の共生・対流に関する施策」について関係各省が連携し、関連施策情報がとりまとめて提供されることとなるが、これらの情報等を活用しつつ本村独自の「都市と農山漁村の共生・対流の推進を図るためのプラン」を作成し、以下の取り組みを充実強化していく。

本村では、平成3年度に農村地域わかもの定住圏等創造事業（農林水産省）で、本村の観光施設のメイン「すきむらんど」にかやぶきの民家風建物（長期滞在型施設7棟）を建設している。この施設を拠点に、郷土料理の提供、地域特産品の販路拡大、体験型ウォーキング事業の展開、学校周完全5日制実施に伴う総合学習の場として活用し、グリーンツーリズムを推進する。

〔具体的な取り組み〕

○現在も実施しているがさらに充実強化を図るもの

（子ども対象）

川遊び、虫取り、プレイリーダー、探検

（青少年対象）

自然循環型ライフスタイル、手作り、魅力的な生き方をしている人との交流、音楽

（中高年対象）

健康、家庭菜園、自給自足、文化的趣味、若者世代との交流...等

（各種体験プログラム）

米作り、栗狩り・ゆずちぎり、芋ほり、椎茸狩り、味噌作り、パン・ピザ焼き、炭焼き体験、竹・わら細工、ダム湖でのフィッシング大会、体験型ウォーキング

○今後新たに取り組みを検討する活動のアイディア

自然農法の研究、農業高校・大学生の農業体験の場、社会人の企業研修、農家ホームステイ、菜の花プロジェクト、新規就農希望者の体験の場 ...等

これらのグリーンツーリズムを展開することで、教育・文化・産業・労働・観光等多岐にわたる相乗効果が生まれることが期待される。これらの取り組みにより、都市

と農山村の共生・対流を推進させることで、本村への入り込み客を増加させ、特産物等の消費が伸びることにより地元商店が潤うなど、村民の生活が豊かになったと実感できるような地域活性化につなげていきたい。